でも僕は、お母さんの気持ちもわかるんだ。お母さんは朝の散歩のとき、僕によく話しかける[1]。今朝、お母さんは僕に「ねえ、ゴンタ。うちのお父さん、たばこやめないね。体のことが心配だから、やめてほしい[2]のよ。だから、かわいそう[3]だと思うけど、あげるお金を増やさない[4]のよ。月に２万円じゃ、お昼ご飯に使うでしょう。ね、わかるでしょう、ゴンタ…」と、言っていた。

僕はお母さんの話を聞いて「そうだよな」と思った。僕も、お父さんに長く生きてほしいから、たばこをやめてほしい。でも、いつも散歩のとき、たばこを１本ニコニコしながら[5]吸うお父さんを見ていると、やめてとは言えない。

もし、僕が人間の言葉を話せたら、お父さんの気持ちをお母さんに、お母さんの気持ちをお父さんに言える。僕は人間の言葉がわかるけど、話せない。話そうとしても[6]人間には「ワン、ワン」としか聞こえないのだ。残念だ。

Vragen

1. Waar geeft de echtgenoot het geld denk je aan uit?
2. Komt dit overeen met de verwachtingen van de echtgenote?
3. Wat vindt Gonta hiervan?

[1] 話しかける ‘aanspreken’
[2] ～てほしい = ～てもらいたい
[3] かわいそう ‘zielig’
[4] ふやす ‘vermeerderen’
[5] ‘terwijl’ (*MnN* Les 28)
[6] De constructie [volitional + と + する] is vaak te vertalen met *proberen te …*